

---

# 『死人』と呼ばれる彼女（仮） その2

葵 束

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『死人』と呼ばれる彼女（仮） その2

### 【Zコード】

N4585Y

### 【作者名】

葵束

### 【あらすじ】

唐突に思いつき書きたくなつた短編小説の続き。

授業中、彼女が教員から指される」とはない。

指されたとしても、黒板に答えを書くだけ。

その為、彼女の声を聞いたものは、いなしに等しい。

真面目に授業を受け、ノートにペンを走らせる。

俺は黒板の文字を見て、自分のノートに同じことを書く。

(……とこりか、あの前髪で視界の確保出来るのか?)

そう思いながら、ペンをノートに走らせるのやめ彼女を見た。

どう見たところで、彼女の目は髪の毛に隠れている。

外から彼女の目を見るのは不可能だらう。

逆に、彼女も外を見る事ができないはずだ。

(どうやって黒板を見るんだ?)

黒板にチョークで文字を書く音が聞こえる。

俺はその音に、彼女から黒板に目を移動させた。

黒い黒板が、白いチョークで真っ白になる。

その為、教員は古い文字を消す。

「……。」

教員が文字を消した瞬間、彼女が少しだけ反応した。

ほんの少しだけ。

誰も気がつかないだろうが、俺は気が付くことができた。

(……どうしたんだ?)

俺は再度、黒板から彼女に目を動かし、不思議そうに眺めた。

彼女は少しだけ口を開いている。

もし髪の毛の下に隠れている目を想像するなら、少しだけ大きく開いているだろう。

言うなれば、啞然としている時の目だ。

(……ん、啞然とした表情?)

俺は彼女を見る。

席は離れているが、俺の席は彼女より後ろ。

斜め後ろに少し離れた場所である。

それ故に、彼女は俺の視線に気がつかない。

結局、彼女の表情の意味は分からず、謎が増えただけだった。

(後書き)

『『死人』と呼ばれる彼女(仮)』

【http://ncode.syosetu.com/n4009y/】

一応、これの続き的な感じでまた書きました。

意外と暇だったんですね〜、私。

連載してもいいような気もしますが、まだ若干……。

いや、ほんの少しだけ自身がありません。

文字が少ないので、それが理由だつたりもしますね……。

もし、「面白かった」「続きが読みたい」「連載してほしい」など思ってくれましたら、感想お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4585y/>

『死人』と呼ばれる彼女（仮）その2

2011年11月17日16時52分発行